

府中

かんきょうよう市民の会

創刊号
発行 2001.7.11
会長 横山 永望

レンゲまつり



草笛に樂しむ子どもたち

四月下旬、押立の田んぼに府中三十景の一つレンゲ田が見事に復活しました。土地所有者の戸塚さんのご好意により田んぼをお借りし、昨年十月にレンゲの種まきをしました。みんなで手入れしたレンゲ田は、春を迎え紅紫色の花がじゅうたんをしきつめたように咲きそろう、田んぼの周りに立てたのぼりの効果とあいまって、多くの市民の目をひきました。

祭りは四月三〇日に決定。この日のために実行委員会を組織し、何回も会合を重ねイベントの内容や分担を決めました。経費の一部は多摩交流センターから助成を受けました。多くの方々に来ていただくように学校・団地など各方面にチラシを配りました。

それなのに、当日は朝から冷たい雨。「レンゲ田が見えない体育館の会議室にはたしてお客さんが来るのか」みんなが心配しました。ところが、開場と同時に親子づれなどがどんどん入ってくるではありませんか。各コーナーの担当者は急に忙しくなりうれしい悲鳴をあげていました。屋内でもできるネイチャーゲーム「わたしのスライドショー」、府中産は

ちみつを使った「ドリリンクコーナー」、タンポポの茎などを材料にした「草笛コーナー」、「押し花コーナー」ではレンゲの葉やハガキ作り、人気の「竹とんぼづくり」、「農のある風景コーナー」では府中の農の今昔を写真で展示、農家のみなさんの協力による「野菜直売コーナー」では新鮮で安全な府中産野菜が売切れるなど盛況で

した。

悪天候でしたがケーブルテレビの取材もあり、初回としてはまずまずの成果だったのではないかと思います。これもひとえに、戸塚さんをはじめ地元農家の方々のご支援と講師の先生方のご指導そしてスタッフのみなさんの汗の賜物だと思えます。

(野口道夫)

『府中かんきょう市民の会』に期待する

東京農工大学教授 小倉紀雄

最近、高まりつつある環境保全に関する多くの人たちの活動に対応し、国や地方自治体の環境行政は大きく変化してきました。環境基本法に基づく環境基本計画(1994年)では、長期的な目標として次の4つが挙げられています。(1)循環を基本とする経済システムの実現、(2)自然と人間との共生、(3)環境保全に関する行動への参加、(4)国際的な取り組みの推進。また、1997年に河川法が改正され、従来の治水・利水に加えて「河川環境の整備と保全」が明確に位置付けられました。河川環境には水量、水質、

生態系、景観など幅広い概念が含まれています。また、河川の整備に関する自治体や地域住民の意思を反映する手続きを導入するなど市民参加の川づくりにふさわしい舞台が出来上がってきました。府中の環境を総合的に考え、水やさまざまな物質循環のバランスのとれたまちをめざすために『府中かんきょう市民の会』が発足したことは、時代の要請に応えるふさわしいことと思います。私と府中市との付き合いは二〇年以上になります。1975年頃から市内の地下水・湧水や河川



白糸台のレンゲ田

水の水質調査を行っており、現在も続いています。1997年に「府中市環境行政のあり方に関する検討協議会」が、1999年に「府中市環境審議会」が設置され、それらの場で『府中かんきょう市民の会』の皆さまとの出会いがありました。

二十一世紀にむけての府中のまちづくりや環境の保全のために、市民と行政が協働し、一歩ずつ進むことが大切なことです。府中の環境を考えることは単に地域の問題だけではなく、さらに広域な環境や地球規模の環境を考え、保全することにもつながります。快適で自然豊かなまちづくりのために、皆さまと一緒に考え、できることから実践したいと思えます。

都立府中西高校

府中市の南西、国立市境にあり、蛙の音が聞こえ、近くの田圃には稲が育っていました。まだ田圃風景が残っているところです。昨年2月、当会が実施した西府崖線ウォッチングの講師をお願いした保坂先生にお聞きしました。

員とがリサイクルボックスに分別仕分けをしています。近々、各教室で分別するようボックスを設置する予定とか。特にゴミ問題に取り組んでいるわけではない様子。

「ジー」がある。そこでは、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、廃棄物、資源枯渇など十項目が学習テーマとなっている。環境学習が地球を救うをモットーに若い人たちに期待しよう。広々とした校舎を見上げて、屋上に太陽光発電装置を設置するのも、エネルギー問題解決の一つと考えました。

(大草郁子)

市民

あれこれ

府中野鳥クラブ

来年は創立20年。会員数は約80人の環境団体。大室会長に聞きました。会費は年間2千円。毎月会報を発行し、会員と関係者に郵送しています。会の目標は、野鳥を通して自然を愛し理解し、失われた自然の回復に貢献することですが、鳥はもちろん、植物にも詳しくなり、多くの効果がある

ようです。

活動は、定期視察会、各月例会、多磨霊園・浅間山ラインセンターなど多岐にわたり、文化センターとの共催で、探鳥会長年続行中です。浅間山を考える会に所属し、恒例のキスグフェステイバルにも参画して市民への啓発活動も活発。冬季の探鳥会にも多くの市民が参加して楽しめます。小中学校の総合学習で観察や講演の依頼があり、模型を使いフクロウの

首が270度回転することを話すと、生徒たちは目を輝かせるそうです。

野鳥観察を続けていて、鳥の生息の変化や植物の変化を知ることになります。活動地域は、市内だけでなく千葉県や埼玉県にも足を運びます。「高齢化が社会問題になっていますが、若い人の入会を希望します。」とのお言葉がありました。会のご発展を期待します。

(大草郁子)

府中かんきょう市民の会会報の創刊にあたって

府中市環境安全部

環境保全課長 鈴木 昭

府中かんきょう市民の会会報が創刊されましたことを心からお喜び申し上げます。

通じ、地域における環境の意味を再発見されていることは、たいへん意義のあることと思っております。

環境問題懇談会の皆様におかれましては、自然観察会や研修会などの環境学習に積極的に取り組まれるとともに、府中市環境審議会に委員を選出していただき、さらには、府中市環境基本計画案検討会にメンバーとして参加をいただいております。深く感謝いたしております。

今日の急激な社会情勢や地域社会の変化は、地域における自然などの環境と人間とのかわりなどの記憶と価値観を喪失させつつあり、このような状況において、皆さまが、さまざまな環境学習を

な生き物が生息する空間をつくる動きが広がっています。こうした小規模なものも一種のバイオトープと呼んでいます。府中

バイオトープ

市内には学校バイオトープと

バイオとはドイツ語で生物を、トープとは空間を意味します。つまり「野生生物が生息する空間単位」のことです。山奥の自然や農山村など地域の生態系が守られたままとまりのある空間を自然バイオトープ・農村バイオトープと呼ぶことがあります。一方、自然が少なくなった市街地の学校や公園にトンボやチョウなど身近

呼べるものはほとんどありません。子どもたちが自然にふれあえる場としてぜひとも実現したいものです。

(野口道夫)

鳩林荘へ

六月九日府中市環境基本計画
 案審査検討委員会主催で委員の
 方々とその他環境問題に関心の
 ある方々を含め25人が鳩林荘
 を訪ねました。武蔵野台駅を午前
 9時半に出発し、府中崖線のハケ
 の道を歩いて東郷寺や湧水のあ
 る滝神社を経て競馬場近くの鳩
 林荘にお昼ごろ着きました。管理
 人さんが庭園内を案内、説明して
 くださいました。鳩林荘は府中崖
 線にあるブリジストン所有の
 庭園で一般には公開されていま
 せん。ハケ上とハケ下をうまく利
 用したすてきな庭です。庭園だけ
 で三、五〇〇坪あり大正8年園部

東京都知事の別荘として作られ
 たもので、所有者が何回か変わり
 現在に至っています。園内には洋
 館やかやぶきの建物、また由緒あ
 る茶室が移築されています。日本
 家屋は宮大工が建てたというす
 ばらしい建築物です。小川が流れ
 池があり、550年前のケヤキの
 大木や竹林、椿、松、モミジ、鳩
 林坂の山桜四季折々楽しめる所
 です。また戦争当時の防空壕の跡
 があつたり、旧品川街道が園内に
 のこっています。
 民間所有のものではありません
 が、府中の宝だと思えます。なん
 とか永く保全し、また市民の環
 境学習の場として見学できるよ
 うになるといいなと思えました。
 (勝谷)

いかに府中らしさを出すか

府中市環境基本計画案審査
 検討委員会、市民公募で発足

全委員の市民公募による環境
 基本計画案審査検討委員会が、環境
 審議会有志を含む57人で発足
 し、2000年8月12日に初会
 合が開かれました。「水と緑のま
 ちづくり」「快適なまちづくり」
 「公害のないまちづくり」「資源

循環のまちづくり」の4つのテ
 マに分かれ、委員は手弁当で、ほ
 ぼ毎月2回のペースで会合を重
 ねてきました。市担当課の環境保
 全課を中心に行政のバックアッ
 プもあり、約一年をかけて200
 1年7月上旬に案審査の骨子が出
 揃いました。

今後の焦点のひとつは、府中ら
 しさを案審査にどう反映させるか
 です。府中の特徴として、①浅間
 山の貴重な環境資源の保全、②
 平坦な地形を活かした自転車利
 用の促進、③「住・工・農」のパ
 ランス、④環境対策推進のための
 東京農工大学との連携などがあ
 げられますが、これらを案審査申
 込にどう盛り込むかです。もうひと
 つの焦点は、市民の声が反映され
 た環境基本計画の採択とその実
 施のための仕組みづくりをどの
 ようなものにしていくかです。
 (吉岡淳)

発刊に思う

横山永望

二十一世紀は『環境の世紀』と
 いわれています。環境の世紀のは
 じめに私たち府中かんきょう市
 民の会(旧名称環境問題懇談会)
 の会報が発刊できることになっ
 たことは真に意義深く編集委員
 会、そして会員のみなさんの尽力
 の賜物です。
 1999年4月に会が発足し
 てから二年余、それぞれの分野に
 優秀な会員が集まり外部の講師
 を招いたり、会員が交互に講師に
 なったり見学に行ったり、時には

会員紹介

リハビリ散歩で
 緑道清掃
 田中正仁さん



昨年秋、脳内出血に見舞われた
 田中正仁さん。いままでは夜の外
 出も控え、昼間も万々に備えケイ
 タイをポケットに。退院後からリ
 ハビリを兼ねた西府崖線の朝
 の散歩をしていましたが、二月か
 らこの緑道の清掃を始めました。
 ご自宅の美好町から西府崖線

フィールドワークやワークシ
 ョップを行ったりしながら行政と
 の共働が出来るように力をつけ
 てきました。この点で特に現在進
 行中の環境基本計画案審査検討会
 に17人の委員を送り、各分科会
 で大活躍している事実は行政に
 も心強く感じているのではと思
 っています。会員の皆さんは個々
 に勉強されたものを持ってもら
 れて多方面に活躍され忙しい中
 を会のために御協力を頂いてい
 ることに對して心から感謝して

下を西府五丁目まで歩き、折り返
 して崖線を戻る往復二キロ半
 の散乱ゴミ集めは、もともと香代
 子夫人が最初に始めたものです。
 ビニール袋、空き缶、吸いガラ
 とさまざまなゴミを奥さんと一
 緒に拾っては、市の収集ボックス
 に入れます。挨拶をかかず人もで
 きたけど、茂みにゴミ袋を投棄す
 る不心得者も後を断たないとい
 います。田中さんは「捨てる人の
 気持ちがわからない」と語りなが
 ら、この活動が会の取り組みにつ
 なげられたらと願っています。
 (館浩道)

いま私の願いのひとつは、会員
 数が二倍以上になり、4つか5つ
 の専門部会ができて、来年度から
 の小中学校での総合的な学習に
 環境教育の講師の依頼を受けら
 れるといいなと思っています。
 折に触れて話していますが、私
 が環境問題に関わっている原点
 は次の次の世代への思いで、それ
 が私を環境問題へ、のめりこませ
 ているのです。先日古いノートで
 見つけたアメリカカンインディア
 ンの言い伝え『自然は祖先から譲
 り受けたものではなく、子孫から
 借りているものだ。』の持つ意味
 を広く共通の認識にしたいと思
 っています。



丸島村荘 2001.6.9 勝谷さん子

ごみ問題探検隊

交流会開かれる

府中と小金井の市民グループが一緒になって作ったのがゴミ問題探検隊です。

6月3日、調布を加えて三市の市民が集まりゴミ問題について意見交換しました。中心は二枚橋焼却場の建替問題です。調布が三鷹と新しい事業を始めますが、三市でできることもあるはず。例えば、二枚橋の焼却場の跡に生ゴミ処理施設(堆肥化や発酵させたガスを発電利用)を作るなど、提案もありました。

今後三市の市民交流を図りながら、考えていきたい。

(内田久子)

秋の風景

ヒガンバナを観る会

用水路とあぜ道を考える

黄金色の稲穂波たつ水田のあぜ道や小川の土手にかがり火を連ねたように、真紅のヒガンバナが咲くといよいよ本格的な秋都市化と水田耕作の機械化で畦や用水路がコンクリート化され、府中でもあまり見られなくなりました。田園風景が残る四谷付近を散策し、府中を再発見しませんか。

日程(予定) 9月24日(月)

振替休日

詳細は、後日チラシで知らせします。

環境市民講座

都環境局支援により、地域で積極的に環境学習や環境保全活動に関わる人材養成を目的に開催します。

市民と環境保全課との初の協働事業で、都環境学習リーダー講座修了者などが企画・実施にあたります。参加・体験を重視し、調査・見学・ワークショップなどで構成。当会は側面から協力します。

テーマ 行政と市民協働企画

期間 9月から12月(月2回・全8回)

募集 市報8月11日号掲載

例会案内

定例会 毎月第2水曜日

活動報告、企画の提案など。率直な意見交換、対話の場。会員に限定せず、誰でも自由に参加できます。

当面の予定

8月8日(水)、9月12日(水)

いずれも午後6時から8時、会場はグリーンプラザ

バスツアー

寺家(じけ)ふるさと村へ

『寺家ふるさと村』のある横浜

市青葉区寺家町は横浜市の北端、町田市と川崎市麻生区に隣接し、鶴見川の源流部に位置する面積86・1haの小さな集落で、人口341人、87戸で、この戸数は江戸時代元禄の頃からほとんど変わっていないという村です。今も昔と変わらず、水田と山林が織りなす美しい田園風景が保存されている地域で、横浜市の緑の7大拠点の一つに位置付けられています。

日時 9月21日(金) 午前9時から午後5時 日帰り

集合 市役所西側玄関午前9時 出発 午前9時30分

問合せ 府中かんきょう市民の会

竹内(364) 3428

平沢(335) 7457

詳細は別途連絡します。(竹内章)

入会のお誘い

千三百年前、奈良の都から国司がつかわれた武藏国の町「府中」。清流多摩川ぞいに開かれた町でした。

江戸、東京の町の「ふるさと府中」緑と自然、歴史的集落、水の流れる低地から「はけ」に上がる数多くの坂……。

京都の町のように残せないだろうが、これ以上消さないために、心ある方々をおかしのねがいます。

(鈴木美生)

7月環境学習会

「公共交通とコミュニティバス」

7月14日(土)午後2時〜4時半

会場 中央文化センター

対象 会員、一般市民

内容 市が計画している巡回ミニバスに関する講演と意見交換

講師 鼠入隆志氏(交通評論家)

資料代 300円

(羽尻元彦、梅沢みどり)

編集後記

旨いそばは、つなぎに秘訣があると言われます。会員と会員、環境保全を願う市民と会員、さまざまな人々の出会いの場として、そして旨さを引き立てる「つなぎ」としてこの会報が創刊されました。